

# 「写真集 モノクローム ヤマシナ」 はじめに



聞き取り取材

## 未来へつなぐ山科の記憶



京の田舎民具資料館見学

**昔**の山科の記憶を写真で残そう、まちの歴史を学び、これからのまちづくりをみんなで考えようと、「写真で語る山科の今・昔」ワークショップの参加者を募集したのは、一昨年10月でした。応募された区民の皆様と京都橋大学の学生の皆様が「パッチリ山科みつ隊」を組織し、区役所の職員も参加して、写真の収集とそれにまつわるエピソード等、各方面の取材をしてまとめ上げられたのがこの写真集です。

ここには、昭和の時代に大きな変貌を遂げる山科の様子が約200枚の写真と人々の語りによって鮮やかに浮き彫りにされています。田んぼや竹やぶが広がるのどかな風景や高度経済成長以前の人々の営みなど、その時代を生きただけには懐かしく、また、それより若い方々には現在とかけ離れた姿に驚きの1枚もあることでしょう。

これらの写真から今後の山科のまちづくりに思いを馳せ、次代に引き継ぐべきものはしっかり残し、また、再生できるものは復活させるなど、区民の皆様とともに「住んでいて良かった、いつまでも住み続けたい」と実感していただけるまちづくりを進めて参りたいと考えております。

最後に、貴重な写真のご提供や取材にご協力くださいました区民の皆様、そして、誰よりも昼夜をいとわず、企画段階からこの活動に大変熱心にご参加くださいました23名の「パッチリ山科みつ隊」の皆様にお礼を申し上げますとともに、写真集の発行に当たり、大所高所からご指導いただきました京都橋大学の木下先生、「山科の歴史を知る会」の山本会長に厚く感謝の意を表します。

山科区長 福德久雄

**近年**、多くの自治体で、地域の声を反映した事業展開を求める動きが加速してきており、そのためには「市民参画」ということが欠かせなくなってきました。今回の写真集は、山科区役所区民部まちづくり推進課が事業の窓口となっていますが、活動主体は区役所に加え、区民・学生との協働グループが一つの組織を構成し、資料をまとめ上げています。つまり、企画段階から制作段階に至るまで、利用者が主体となって作り上げているという点にこのプロジェクトの大きな特色があります。このように、より多くの「利用する視点」「評価する視点」を盛り込むとともに、またテーマそのものに関心のある人たちが集まることで、当初の想像を超えた成果に仕上がっていると考えます。そして、プロジェクト全体としては、この写真集を発行することのみが目的ではなく、地域をきちんと見つめるという「プロセスそのもの」を重視し、この写真集以外に詳細な報告集と、写真のデジタルアーカイブもあわせて制作をしています。何分、地域連携活動の一環として行っていますので、不十分と思われる点、あるいは反省すべき点多々あるかは存じますが、使う人がそれぞれの見方で楽しんだけたら嬉しく思います。また、関係いただいた皆様方には心より感謝申し上げる次第です。

コーディネーター

京都橋大学文化政策学部助教授 木下 達文



花山天文台見学



花山天文台見学



ワークショップ



ワークショップ